株式会社東洋経済新報社

Graphic_エディトリアルデザイン

別冊Think! 発行

導入サービス

・イメージ戦略
・ビジュアルプランニング
・リデザイン

過去の豊富なアーカイブを再生し、新たな価値をターゲットへ届けたい。

過去の素材を再生させ、そこに新しいバリューを創り上げる。
結果的に売上部数に結びついたこのプロジェクトは、デザインの力によってそれが可能であるということを証明しました。

背景とプロジェクト課題

創刊号よりdigでアートディレクション・デザインを担当してきた東洋経済新報社が発行するビジネス雑誌「Think!」。豊富な過去の記事アーカイブよりテーマに合致したものだけを選りすぐり、今まで本誌を知らなかった読者にも低価格で情報を提供することを意図して別冊を企画、本誌同様digがデザインを担当しました。

digに求められた役割

創刊から7年が経過していましたが、過去7年分の記事から特定ジャンルの記事だけをピックアップし、新たに1冊の別冊にまとめるために、フォーマットの統一とそこに新しいコンセプトを付与することが求められました。

digのソリューションと成果

ハイクオリティ・スタイリッシュ・ユニークというコンセプトは守りながら、各特集の内容にあわせて全体のデザインの方向性を模索しました。具体的には別冊1号の「一流の思考」では、30代をターゲットに黒をベースとしたストイックで落ち着いた高級感を、別冊2号の「20代で知って鍛えておきたい思考の基礎体力」ではイラストを使用し、大学生もターゲットに想定して、若い紙面づくりを目指しています。いずれも過去の記事の再利用ですが、特集の内容にあわせて、フォーマットを再設計し、図表も含めすべてリデザインしました。
本誌の表紙のロゴ、タイトルまわりは、書店で既に認知されているので、逸脱しない範囲で別冊だということをアピールして欲しいという編集部からのリクエストに沿う形で、特集見出しの配置の仕方などは本誌のセオリーを踏襲しつつ、アレンジしながら表紙を構成しました。
別冊の数字的な成功は、3号の企画に続き、その後本誌のリニューアルにつながります。

Think!別冊　No.1

Think!別冊　No.1　中面

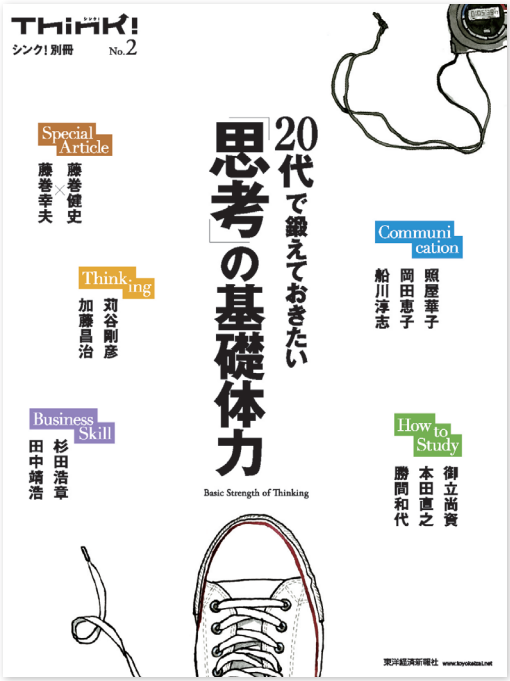
図のカラー計画

digが行ったタスク

- **コンセプト企画案**
- **表紙、誌面のデザイン設計**
- **紙材変更の提案**

No.1について

〈全体〉
想定ターゲットは、ワンランク上を目指す30代のビジネスマンを中心に40代後半まで。「高級感」「知的」をキーワードに、特集のテーマである「一流」が感じられるようクラシックで落ち着いたイメージをデザインに落とし込んでいます。カラー計画はシックな黒をメインに、書体は伝統的な活字のイメージを残したイワタ明朝・イワタゴシックを採用しました。
〈表紙〉
堂々とした一流のイメージを伝えるためにシンメトリーの構成で、タイトル文字は活字に墨が溜まる活版のイメージが出るようフィルタ処理をかけて、アナログ感の味わいを出す工夫をしています。
〈紙面〉
余白を生かし、キーカラーであるスミベタ面を大胆に挿入しました。図版の色も黒にあわせて落ち着いた配色で再制作し、アクセントとして紙のモチーフを用いてアナログ感を出しながら、単調にならないよう特集ごとにレイアウトの変化をつけています。本文書体はイワタ明朝体とGaramondを使い、文字量が多い特集にも適用できるよう読みやすさを考慮しました。



Think!別冊　No.2

No.2について

〈全体〉
2号のターゲットは20代。こちらはフレッシュなイメージを想起できるよう、カラフルな色と思考の基礎体力から着想を得たトレーニンググッズのイラストが全体のコンセプトとなっています。
〈表紙〉
2号では、20代へリーチするための若々しさ、内容の難しさのハードルを下げることに注力しました。タイトルは太いゴシック体でインパクトを、色とイラストでアクセントを表現しています。
〈紙面〉
アイキャッチとなるよう、イラストとタイポの組み合わせを各章扉に挿入しています。本文書体はヒラギノゴシックを採用し、節タイトル・著者名・ノンブル・柱等では、ターゲットを考え、スタイリッシュに見えるよう欧文書体を積極的に挿入しました。小見出しや飾り罫には水彩絵の具で実際に描いたスケッチブックをスキャンして利用しました。

Think!別冊　No.2　中面

Think!別冊　No.2　扉

プロジェクトを終えて

どの記事も本誌の過去の特集で取り上げたものであるため、バラバラのフォーマットで、そこにデザインの共通性はありませんでした。勝間和代さんをはじめ、以前よりも著名になっている方も多く含まれているこれらの記事を、テーマに沿って見直し、新しいコンセプトを付与してリデザインし、次のターゲットへ届ける。 この成功が3号の企画や本誌のリニューアルにつながったことは喜ばしい限りです。

お問い合わせ先

dig TEL 03-5790-7523
make difference

株式会社ディグ
〒151-0066 東京都渋谷区西原3-17-8 dig bldg.
E-mail info@dig.co.jp
http://www.dig.co.jp

©dig,inc